

晩禱序式

晩禱の前にこの序式を用いてもよい。

司式者は次の聖語の一節または数節を朗読する。

ハバクク書二章二〇節

マラキ書一章一一節

詩一九篇一四節

エゼキエル書一八章二七節

詩五一篇三節

詩五一篇九節

詩五一篇一七節

ヨエル書二章一三節

ダニエル書九章九、一〇節

エレミヤ記一〇章二四節

マタイ伝三章二節

ルカ伝一五章一八、一九節

詩一四三篇二節

ヨハネ第一書一章八、九節

司式者は次に勧告をする。かつこの中は省いてもよい。

勧告

愛する兄弟よ、『聖書にしばしば、しるせるごとく、天の父・全能の神は罪を懺悔すべきことを勧めたもう。我ら多くの罪を犯したれば、包みかくすことなく、まことに謙そんなる心にてこれを言いあらわし、父の深きあわれみによりて赦しを求むべし。これはいつにてもなすべきことなり。しかれども相ともに集まりて、父の御手より受けし大いなる恵みを謝し、御名をほめ、御言葉をきき、からだと魂とに必要なものを願う時には、格別になすべきことなり。ゆえに『恵みの御座にむかい、きよき心と静かなる声をもって懺悔し奉るべし』

一同ひざまずいて次の懺悔をする。

懺悔

あわれみ深き全能の父よ、我らは迷える羊のごとく父の道を離れ、多くおのれの工夫と欲に従い、主の聖なる律法をおかし、なすべきことをなさずなすべからず事をなし、全きところあることなし。しかれども父よ、主イエス・キリストをもつて世の人に約したまえるごとく、罪に悩める者をあわれみたまえ。とがを懺悔するものを赦したまえ。悔やめる者をかえしたまえ。あわれみ深き父よ、願わくは今よりのち神を敬い、正しきを行ない、御を修めて、御名の栄光をあらわすことを、イエス・キリストのいさおによりて得させたまえ アーメン

司祭は立って次のように言う。

赦罪

我らの主イエス・キリストの父・全能の神は、罪びとの死ぬることをお好まず、悪より帰りて生くることを望み、又その仕えびとに權威をあたえて、主の民に罪の赦しを告ぐることを命じたまえり。神は、まことに悔い改めて福音を信ずる者をことごとく赦したもう。願わくはあわれみ深き全能の神、なんじらの罪を赦し、恵みと力を与え、悔い改めにかのう新たなる生涯を送らしめたまわんことを。アーメン